



音楽運動



日本音楽協会 〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町3丁目10-15 富士ビル505号室 発行人 松本敏之
TEL 03-3221-1821 FAX 03-6369-3057 URL <http://nichionkyou.org> Email nichion@yomogi.or.jp

火のよう」に決定しました。

のテーマは、「届け 私たちの思い 歌にのせて 空に広がる花

の集いで演奏機会の提供などを要請しました。

の運営サポート、⑤ 連合関連

の集いで演奏機会の提供などを要請しました。

のテーマは、「届け 私たちの思い 歌にのせて 空に広がる花

の集いで演奏機会の提供などを要請しました。

（前回の新潟音楽祭の）2010年（第43回）から代替わりもあり体制が変わっているが、長岡開催ということで、「花火」をテーマに音楽祭の成功に向けて進めていきたい。」とのあいさつがありました。

1月31日、第2回新潟県実行委員会が長岡市内で開催されました。第1回実行委員会（12月19日）は豪雪により書面開催となったため、事実上の「初顔合わせ」となりました。

新潟県実行委員長である牧野連合新潟会長から「第1回と同様に、第2回も大雪だったが、何とか開催することができた。

第2回新潟県実委を開催 届け 私たちの思い 歌にのせて 空に広がる花火のよう

音楽祭ポスターは、2月末を期限に新潟県内の美術系大学・専門学校、新潟県内の組合員・家族から募集します。新潟県実行委員会では応募を審査し、最優秀賞（1点）、優秀賞（1〜2点程度）を選考します。

音楽祭1日目の6月3日に全国交流会を4年ぶりにアオーレ

長岡・市民交流ホールA（長岡駅前・長岡市役所近く）で開催します。「新潟」ならではの交流会となるように企画していきます。全国のおいしいお酒の持ち寄りも大歓迎です。

第3回新潟県実行委員会は5月9日に開催予定です。

（竹内崇志）



辺野古新基地建設の断念を 日比谷野音で集会

1月27日、日比谷野外音楽堂で辺野古新基地の建設に反対する集会が行われました。主催は「止めよう！辺野古埋立て」国会包囲実行委員会。

10年前の同じ日に、沖縄県の41全市町村長・市町村議会議長が署名・捺印し、「オスプレイの配備撤回・普天間飛行場の閉鎖・撤去と県内移設断念」を求める「建白書」を首相に手渡しました。

その後、県知事選と県民投票では辺野古新基地建設に反対する県民の民意が示されてきましたが、政府は埋め立て工事を強行し続けています。

集会では、玉城知事のビデオメッセージやリレートークで「辺野古新基地建設の断念を求める国会請願署名」が呼びかけられました。参加者は辺野古新基地建設を許さないコールをあげ、デモ行進しました。日音協と歌の仲間たちは、開会前のお迎え演奏とデモ行進に出発する参加者をお見送りする演奏をしました。

「辺野古新基地建設断念を求める国会請願署名」にご協力をお願いいたします。

署名用紙はQRコードまたは下記から取り出してください。

<http://www.peace-forum.com/info/seigan-henoko.html>



またまた大雪の中開催された第2回実行委員会

青森県支部コンサート

演奏者は事前に
検査キットで
陰性を確認!!



ヒゲの嵯峨さん



佐藤支部長

3年ぶりに対面で総会も開催

2023 日音協青森県支部コンサート

1月28日(土) 17:00
青森市・かくれんぼ

- 1、嵯峨 高
 - ・空に星があるように (作詞・作曲=荒木一郎)
 - ・嘲笑 (作詞=北野武 作曲=玉置浩二)
 - ・時代おくれ (作詞=阿久悠 作曲=森田公一 歌=河島英五)
 - ・心の友 (作詞・作曲=五輪真弓)
 - ・海 (作詞・作曲=五輪真弓)

- 2、金沢紀宏
 - ・今日までそして明日から (詩・曲=吉田拓郎)
 - ・遠野物語 (詩・曲=あんべ光俊)
 - ・今ゆくのは俺たちさ (詩=田中克弘 曲=深尾泰之)
 - ・夜明け (詩・曲=松山千春)
 - ・闘いつづけて 歩きつづけて (詩=長谷部恵明 曲=嵯峨高)

- 3、佐藤康弘
 - ・東へ西へ (詩・曲=井上陽水)
 - ・南へ (詩=岩間芳樹 曲=窪田聡)
 - ・たずねておいで (詩=安沢ひろみ 曲=まとはよしお)
 - ・ミール イ ドゥルージュバ (詩・曲=真野裕司)
 - ・続 てんびんばかり (詩・曲=河島英伍)

- 4、大嶋忠男
 - ・紙ひこうき (詩・曲=大嶋忠男)
 - ・泣く子はいねえが (詩・曲=大嶋忠男)
 - ・カントリーロード (ジョン・デンバー)

- 5、松本敏之
 - ・リトル・アニー (伝承曲)
 - ・風車の唄 (古川豪)
 - ・ON THE ROAD (まとはよしお・笠木博逸)
 - ・10年前のこと (松本敏之)

- 6、甲屋文史
 - ・半透明の時間 (詩・曲=甲屋文史)
 - ・ピエロの唄 (詩・曲=甲屋文史)
 - ・星のパレード (詩・曲=甲屋文史)
 - ・落葉の頃に (詩・曲=甲屋文史)
 - ・夕日の部屋 (詩・曲=甲屋文史)

- 7、感謝の一曲
 - ・信頼 (詩=井田祐司 補=飯島貞親 曲=小山孝)

1月28日、県支部総会と県支部コンサートを開催しました。総会は、今後毎月一回第4金曜日に「かくれんぼ」で演奏力を磨くことを確認し、16時には終えました。役員は全員留任となりました。コンサートには、ゲストとして松本会長、秋田から大嶋さん。観客として秋田の後藤さんご夫婦が参加。総勢9名で交流を深めました。

(佐藤)



青森の松山千春こと
金沢紀宏



カントリー風に歌いあげた松本会長



甲屋文史の世界
県支部の大トリ



秋田から参加の大嶋さん



盛り上がった「かくれんぼ」



地域のコンサートに、ローカル線が参加

昨年12月20日、地元のレストランで「年忘れコンサート」と題した集まりがあり、ローカル線が参加しました。

中味は、懐かしのフォークソングから、オカリナ演奏、安木節まで幅広い中、創作曲でいけるのかと、一抹の不安はありましたが、会のトリで「 Teppan Kake Taka」「クロマニオンが笑ってる」等五曲を30分程演奏しました。手応え十分で終わることができ、次回のチャンスももらえました。

これからも一般の方に普通に聞いてもらえるメッセージングを目指し活動していきたいと思えます。(塚本)

世界中が笑顔に包まれますように



「第14回笑顔笑顔のクリスマスコンサート」が、12月18日にパレットくもじクリスマス広場で行われました。この取り組みは、①アマチュアバンドの発表の場を作る ②すべての人に笑顔を届ける ③街の活性化を目的とし、今年は8団体の参加で開催し、沖音協は、企画・運営・演奏を行いました。

入れ替えの合間を利用して、社協ボランティア団体の歳末助け合いカンパも呼びかけました。手作りの路上コンサートでお金もかけず、ネットワークを築けるのが一番の成果です。(平良昌史)



2023日音協セミナー開催します

2023日音協セミナー

| | |
|-----------------------|--|
| ・創作コース | 担当 後藤 |
| ・歌うコース | 担当 佐藤、根本(坂口) |
| | ・会計 担当 松本 |
| | ・庶務全般 担当幹事 坂口 |
| 2023年2月11日土 タイムスケジュール | |
| 9:00 | 創作コース 歌うコース |
| 15:30 | 集合・受付(Eスタジオ) 15分 開会式(Eスタジオ) 15分 |
| 10:00 | Eスタジオ 谷森さんの講座 1時間30分 |
| 11:00 | 移動・準備 |
| 11:30 | Eスタジオ 創作コース1h Aスタジオ 歌うコース1h もずくさんのポイトレワークショップ |
| 12:00 | |
| 13:00 | 各自昼食(1時間) |
| 14:00 | Eスタジオ 創作コース4h Aスタジオ 歌うコース4h もずくさんのポイトレワークショップ |
| 15:00 | |
| 16:00 | |
| 17:00 | |
| 18:00 | Aスタジオ コンサート準備30分(軽食) |
| 19:00 | Aスタジオ コンサート1時間30分 (谷森さん&もずくさん30分) |
| 20:00 | 片付け・退室15分 解散 会場を替えて飲食交流1時間(任意参加) |

若い会員の交流会は
日程を変更して開催予定です

| | |
|-------------------------|---|
| 2023年2月12日(日) タイムスケジュール | |
| 9:00 | 創作コース 歌うコース |
| 10:00 | Eスタジオ 創作コース4h Aスタジオ 歌うコース4h もずくさんのポイトレワークショップ (個人、グループレッスン) |
| 11:00 | |
| 12:00 | 昼食1時間 |
| 13:00 | Eスタジオ 各自まとめ・成果発表準備 30分 |
| 14:00 | Eスタジオ 成果発表 1時間 |
| 15:00 | Eスタジオ 感想会・閉会式 45分 |
| 16:00 | 片付け・退室 |
| 17:00 | 解散 |

| 氏名 | 支部 |
|--------|----|
| 佐藤 康弘 | 青森 |
| 狭石 啓子 | 東京 |
| 高野 直美 | 新潟 |
| 田中 珠萌 | 東京 |
| 根本 賢治 | 千葉 |
| 松山 恵子 | 東京 |
| 松山 弘明 | 東京 |
| 森 理子 | 東京 |
| 加本 和美 | 東京 |
| 上村 一郎 | 長野 |
| 坂口 美日 | 東京 |
| 塚本 昇 | 長野 |
| 後藤 雅裕 | 秋田 |
| 松本 敏之 | 茨城 |
| 計14人参加 | |

はたらくものの音楽祭ステージあれこれ話

第四弾 《いまさら聞けない、舞台幕について》

一般的な舞台にはあたりまえのようにある幕。はたらくものの音楽祭でも、実はこの幕が、演出の重要な役割を果たしてくれています。とは言え、立派なステージほど幕の種類も豊富で多様な演出ができるようになっていますが、残念なことに、はたらくものの音楽祭で使用するのは基本的な幕のみ。ということで今回は、舞台幕の超基本的な話となります。

① 緞帳（どんちょう）

舞台と客席を仕切るための幕。舞台の最前に設置され、独特の刺繍を施した豪華な織物地の緞帳は、ホールの顔とも言われます。昇降形式が主流ですが、今年の音楽祭の会場となる長岡市のリックホール・シアターの緞帳は、引割り緞帳（ひきわりどんちょう）と言われる、中央から割れる形式の緞帳です。

緞帳は、公演の開閉を演出する役目をはたしながら同時に、公演前後の舞台のバタバタ状態を客席から隠すという役も果たしています。現在のはたらくものの音楽祭では、30分前に緞帳を降ろし、開場するようにしています。

② 袖幕（そでまく）

読んで字のごとく舞台両袖に吊ってある幕です。実は、配置された列によって名称があるのですが、舞台によって色々な呼び方をすることが多いのでここでは触れません。

袖幕は、舞台関係者や出番前の司会や出演者または装置などを、観客の視線から隠すという目的で吊るされています。あたりまえの話ですが、袖から客席が見える場所は、観客の視線から隠れていない場所となります。



③ ホリゾン幕

舞台最後方の大きな幕です。主流は幕ですが、昨年のはたらくものの音楽祭会場のザ・ヒロサワシティ・小ホールは、ホリゾン壁でした。リックホール・シアターは幕です。

ホリゾン幕は、上や下から照明を当てて公演の背景色を演出するための重要な役を果たしています。そのため幕の色は白または淡い色となっています。最近のはたらくものの音楽祭では経費を抑えるために凝った照明からは遠ざかっていますが、背景となる照明の色は希望に沿って当てています。（希望がない出演団体は、照明担当者が演奏の雰囲気に合わせて色を変えています。）

背景の色によって演奏全体の雰囲気もアップします。これまで希望を出されなかった団体も、YouTubeにUPされているはたらくものの音楽祭の動画などを参考にしながら、今年は照明の希望も出してみたいでしょうか。

（坂口美日）

新潟祭典に向けてCDの完成を目指す

FMカンパニーが総会開催



みんなの笑顔がいちばん

北海道支部は1月14日（土）に札幌市北区屯田地区センターにて2023年度の定期総会を開催した。参加者は9名。昨年秋から療養中の笠木さんが当日サ

プライズ参加をして一同びっくり。抗がん剤治療で坊主なのかと思っていたが、髪はふさふさ。変わぬ元気な姿で現われ皆笑顔で出迎えた。今後も焦らずゆっくり治療に専念してもらい復帰するのを待つのみだ。

さて、コロナ禍で中断を余儀なくされていたFMカンパニーのCD作業は昨年の4月から再開した。

月に2回のペースでのレコーディングを精力的にこなしたが、8月にはコロナ感染でクラスター事件になるなど話題に事欠かない作業だった。今年1月末でなんと全ての曲の収録を終えたので、あとは曲順やジャケット作りに入る。

作成枚数は思い切って300枚をプレスする。まずは6月の新潟祭典でのお披露目を皮切りに、その後は北海道労働文化協会の50周年記念レセプションやCD発売記念ライブなども企画して渾身のCDを皆さんに届けたいと考えている。なにやらの場さんが手作りの「特別付録」をつけると張り切っているのでもちろもご期待。

今年のFMカンパニーも楽しく面白くやっていきたい。（磯野宏之）

◎読者アンケート「書かれた誰」
 ■日音協ソングの応募曲、推薦曲や、各地で発表している新曲、歌の力が物語るもので歌われている新曲や替え歌など、それらのつくり手や歌い手による歌の説明やら、きっかけになったこと、今歌うのは…等々、その類の記事がなかなか見当たりません。音楽運動ですから「新しい歌」を中心に記事にしてください。■「ごん行」記事に共鳴しています。■今は手に入らないような歌の楽譜や編曲譜等（が欲しい）■出雲市役所前で「戦争法反対アピール集会」が毎月第1土、19の日にあり、今村氏、藤川氏、天羽氏、市野氏等の曲を歌っています。参加者は共産、社民、共産系諸団体中心で10人、15人です。■歌の力が物語るものの毎月の掲載に励まされます。官邸前の様子がこの11年で様変わりしていきましたが、私の中では音楽運動に掲載されている内容で、変化を感じることが出来ます。／音楽運動が難しい状況の中で地道に活動を継続している皆様のことを取り上げてほしいです。／コンサートなど聴きに行っても良いのであればツアーを組んで小旅行気分に行きたいのでお知らせがあると嬉しいのです。■毎号記事集めが大変なことと思いますが、欠かさずに各ページの記事で埋めていること、感謝と労いで一杯です。■個人の感想ですが、見出しなどには「ポップ体」の使用は合わないと思います。／会員の顔が見えるような企画をお願いします。■……◎ありがとうございます。今後の編集の参考にさせていただきます。

(編集部・佐藤)

音楽運動

創刊おめでとう

昭和41年10月25日
 音楽運動第1号より

■宮城千賀子（俳優）
 新聞創刊、おめでとうございませぬ。

わたしは音楽は好きですが、音楽についての知識は深い方ではありません。現在、音楽は国民生活の日々の糧としてむかえられておりますが、真の意味で多くの人にむかえられる現代音楽は、まだ少ないのではないのでしょうか。そういう面にスポットをあてて多くの人にむかえられる音楽を、作って下さるよう祈ります。

日音協の事務局長の漆崎さんとは知合いなので、芥川さんや皆さんが、これからどう進まれるか、それを楽しみにしております。

■北川義行（総評教団局長）
 機関紙「音楽運動」の創刊を祝します。

日音協には、私たち職場の音楽を愛好するほどの者なら積極的に入会してほしいと思う。

芥川・岡田・印牧さんや事務局長漆崎君の努力によって新しい音楽運動の機運が高まりつつあるが、これが、機関紙発行によって一層強化されることを祈ります。

■吉野源三郎（岩波取締役）
 日本人の精神が形成されてゆく上に、文学が果たした役割—いまも果している役割は、見逃すことができない。夏目先生以後のいくつかの傑作は、いまでは完全に国民

のものとなっていて、いわば日本人の精神的風土を作っています。私は音楽についてもこの資格がないのですが、そういう自分を見るにつけても、よい音楽が国民の誰にとっても自分のものとなり、文学以上に私たちの豊かな精神的〇〇〇〇〇〇、日本人がその中で育つようになったらどんなにいいかと考えます。—その意味で、芥川さんの新しい出発に心から拍手をおくります。たいへんでしょうが、どうぞ元気でやりぬいて下さい。

■関根弘（詩人）
 祝・創刊。音楽運動にたいする統制主義的な傾向を克服して日音協の機関紙が誕生することは祝われていい。そこに、生れるべくして生れてくるものの必然がある。今後は真に大衆の創造の芽を育成してほしいと思う。

■水上勉（小説家）
 いままで労音に所属していた芥川さんが、音楽をもっと自由な時点で位置づけようとして日音協をはじめられたこと、その機関紙を出されることは私も賛成だ。音楽は誰れもが自由にきき、歌い、演奏できるものでなければならぬ。私は音楽を解するものとはいわぬが、真によいメロディーには耳かたむけた。

■おおば比呂司（漫画家）
 芥川さん、今回の新聞創刊お見事です。

私は仕事に疲れた時はよくレコードをまわします。生来、音楽は嫌いな方ではありません。時として芥川さんのお仕事振りをテレビなどで拝見していますが、あのスマートさは今回の新出のあざやかさとマッチするものとお見受けしました。

未来にかけて日本の音楽のために、よい音楽運動を深めていって下さい。ご多幸を祈ります。

■田中澄江（劇作家）
 日常の言葉がみだれているように、音楽作品にもみだれが感じられます。そして、みだれたままの音楽が大勢の人の耳につたわっている。それを、正しい姿勢にもとし、みんなの心を充たすよい音楽を創りだす運動にして下さい。

■井上靖（小説家）
 芥川さんは日本の音楽界の一つの良心です。外部から見ていると芥川さんは常に身辺を清らかな流れて包んでいる感じがしますが、これは余人の真似て及ばない、芸術家として立派なところだと思えます。その芥川さんの出発をお祝いします。そして、これからのお仕事に一層の期待を寄せます。

■朝倉攝（彫刻家）
 運動と創造とのかわりあいはかなりむづかしい問題です。いままでが労音が、大衆の音楽としてやってきたが、こん日の時点で新しく日音協の音楽運動がもりあがってきたことは意義あることです。いろいろの主張や運動があつた方がよいし、それと創造とのかわりあいの深化がのぞまれます。

■新珠三千代（俳優）
 新聞の創刊をお祝いいたします。新しいご出発がおおくの人の心の糧になりますよう。

■石川達三（小説家）
 芥川也寸志君の新しい出発をお祝い申します。

音楽について私はまったくの門外漢ですが、歌謡曲という愚劣な音楽がテレビの番組に氾濫しているのには、ひそかに腹を立てております。あの下等な流行をクチクして、もっと美しく楽しい音楽を民衆にあたえるように一つ努力して下さい。

この間いろいろな編集方針をたて取り組んで頂きました

水道橋だより

▼若い会員の交流会、4月～5月に延期▼2月11日から2月12日の2日間、2023日音協セミナーと合同開催予定だった、若い会員の交流会は、多くの参加予定者の都合がつかないことから、延期することにしました。▼4月下旬から5月中旬の土日2日間での開催を予定しています。交流会のスタイルは、参加予定者と連絡を取りながら決めていきます。詳細が決まりましたら、ご案内いたします。▼6月の新潟音楽祭に向けて、充実した交流会になるようにしていきますので、ぜひご参加ください。(竹内)

▼音楽運動の読者アンケートへのご協力ありがとうございました。5面に一部掲載しました。(同じような内容のものは割愛させていただきます。)

▼思えば、歴史ある日音協の機関紙「音楽運動」。歴代の担当者の方々がいろいろな編集方針をたてて引き継いできてくれたものでした。▼今後とも皆さんのご意見とご協力をいただきながら発行していきたいと思ひます。(佐藤)

▼セミナー参加の皆さん「セミナーのしおり」早めに送ります。(後藤)

歌の力が物語るもの 114

葉萼坂つた行動 1/13 (465回) 報告 R.ico

【参加者】スーさん、モリヤさん、はしゆきさん、えるもくん、イサさん、佐藤さん、達哉、森 計8名

夜遅くから雨の予報、でもまだ大丈夫。少し暖かな夜。経産省前行動からの人たちが、官邸前で集会があるらしい、と葉萼坂を上って行った。先々週つくったプラカードを、クリップでフェンスに掲げた。外せと言われるかな、言われたら外せばいい。はしゆきさんが小さなスタンド灯りでライトアップしてくれた。

夜遅くから雨の予報、でもまだ大丈夫。少し暖かな夜。経産省前行動からの人たちが、官邸前で集会があるらしい、と葉萼坂を上って行った。先々週つくったプラカードを、クリップでフェンスに掲げた。外せと言われるかな、言われたら外せばいい。はしゆきさんが小さなスタンド灯りでライトアップしてくれた。

先週教えてもらった『原発はいらない』の楽譜を作り直すこと、モリヤさんに歌詞付けを確認した。メロディがやさしいので、3番の怒りの歌詞になると、音付けも少し変えたくなるという。それには同感。葉萼坂バージョンというところで、ここで歌える楽譜を作ろう。



1/27 辺野古新基地の建設に反対する行動

そのうち達哉も窮して、母に視線を送る。警察官はけっこう粘ったが、あきらめて端に居たイサさんの方に向かっていった。しかし達哉に対して応えを待った警察官は偉いと思った。みんなも歌いながらそのやりとりが気になっていった。後で達哉が言うには「いつもやっているのか」「何時までやるのか」などの質問だったらしい。最近フレンドリー路線の警備。彼らに届けと、去る背に向かつて『民衆の歌』を歌った。「列に入れよ 我らの味方に...」。声も気持ちも届くといいな。

どん行

(163) 飯島貞親

あるいはチャーターした飛行機だった▼環境問題の先送りは、若い人に確実にツケを押しつけている。

▼「神田川」という曲は73年に発表され、ヒットしたため都内観光のコースに設定された。しかし、当時はドブ川だったのだから、コースからはずされた。高度経済成長政策により10年で所得倍増を実現した時の政権は得意になってきたが、大量製造・大量消費が環境破壊を引き起こした。合成洗剤の使用量がせっけんを上回ったのは63年▼この成長期(60年代)に作られた校歌には、煙突からもくもくと煙が出ているという歌詞がたかさんあった。我が町の発展を手放しで絶賛していた。その後、水俣や四日市で公害が発生すると歌詞は書き換えられた。公害問題は67、69年に裁判に提訴されたが、発症は水俣病が53年頃、四日市喘息は59年頃と提訴よりずっと前であり、解決のための方策は後回しにされてきた。最高裁で患者側が全面勝訴するのは高度成長末期、ようやく71、73年だった▼気候変動の悪影響を回避するためのCOP26(21年)では開催地に世界の首脳が集まった。そのために乗ってきた飛行機は全部で400機。それも民間空港の商業路線ではなく大統領専用機、